

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年7月13日
タイトル	「くわい」植付けの見学をしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年7月1日（金）福山市立川口小学校5年生87名による「くわい」植付け見学取材しました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培しており、農家の方から「くわい」栽培の話を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

5時間目の授業として、水土里ネット福山組合員の種本守雄さんのほ場約1,000㎡でくわい植付けを見学するため、子ども達は小学校からほ場まで歩いて来ました。晴れ渡る青空で日差しが強く暑い日でしたが、子ども達は元気一杯です。

ほ場に到着した子ども達は、近くの駐車場を借りて待機し3組の男女で6チームに別れ1チームずつ植付けしているところを見学します。くわいの苗や植付けの仕方を見せていただきました。



今年一番の暑さの中、朝から3箇所目の田んぼを植付けされる種本さん、強い日差しで田んぼの水がお湯のようになっているとびっくりしておられました。6人が一列に並んで、手作業で植えていきます。無駄のない手さばきで、1000㎡を1時間半ほどで植えてしまわれました。

子ども達は植付けを見学し「くわいの苗つくくわいからできてるの!」とびっくりしたり印をつけて、整然と植える様子を見て「すごい!」と感心していました。

見学が終わると待機している駐車場に戻り、見学の気づきをメモします。

種本さんに聞いてみたいことや疑問に思ったことを各自でまとめました。

見学が終わると、種本さんに作業の手を止めていただき質問する時間が設けられました。

・くわいはいつ頃収穫するのですか？

11月10日から12月20日まで収穫します。お正月の食べ物なので年内に収穫を終えて出荷します。

・くわいを植えるのに適した土はどんな土ですか？

くわいは野菜の仲間で、通常野菜は水はけがよい土がいいですが、くわいは水が漏れないような粘土質の土が適しています。

・肥料はいつするのですか？

植付けをする1ヶ月ほど前に肥料を撒いて耕運機で耕します。早い時期から植える準備をします。

・くわい畑に網がしてあるのはなぜですか？

カモが、くわいが好物で食べてしまうので、ネットで覆って食べないようにしています。

・なぜ、川口町がくわいの産地に適しているのですか？

気候が適していることと、くわいは栽培にも収穫する時も大量の水が必要で、川口町は水土里ネット福山が芦田川から農業用水を取水して管理しているため、水が豊富にあることが栽培に適しているからです。

・芽がでていない「くわい」は、植付けできないんですか？

芽がでていなくても植えることはできますが、収穫した「くわい」の中から翌年の苗用に選んで大きな冷蔵庫で貯蔵しています。植付けの2週間前に冷蔵庫から出して選別し、さらに芽が出た物の中からいい苗を選別して植付けます。「くわい」をそのまま植えても芽が出ますが、確実に育って沢山の実をつけるようにするために選んだものを苗にしています。



種本さんから思わず「いい質問するね！」



あまりの暑さに飲料水を今すぐ飲みたい！

最後に、子ども達に水土里ネット福山から今回の農業体験をきっかけに農業用水に関心をもってもらい、豪雨などの災害時や日頃の生活のなかで、ため池や水路に対する防災意識を高めてもらおうと農業用水路の防災について話をし、福山市上下水道局の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」を配布しました。みんな真剣な眼差しで聞いてくれました。

暑さで熱中症にならないか心配しましたが、子ども達は元気一杯で、全員で大きな声で「ありがとうございました。」とお礼を言って炎天下のなかを歩いて小学校へ帰校しました。

川口小学校では、これから校庭でくわいを植付け栽培し、秋には出前授業でくわいについて各方面から学び、冬には収穫をし自分達で栽培した「くわい」を使って調理をするなど様々な取組みをされます。

水土里ネット福山は、こうした取り組みに協力し子ども達に農業を通じて「ふるさと」の素晴らしさを伝えられるよう21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。